超高真空極低温走査型プローブ顕微鏡システム

USM1200

UHV低温SPMのベストセラー！
改良により低温性能が向上し、抜群の安定性を保証

超高真空中で試料の前処理とプローブの清浄化を行って、極低温下でSTM、AFM、SNOMの観測が原子・分子レベルの分解能で行なえます。近年広がりつつある応用範囲に対応するために、新しいプローブや付属装置を取り揃えています。

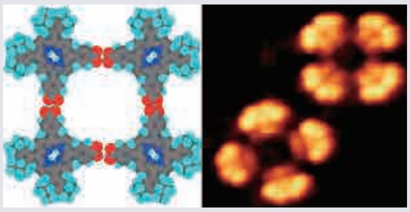
USM1200全体写真
(横から見た図)

特長

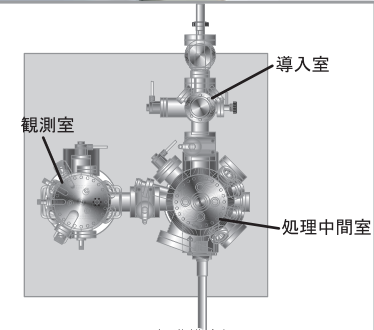
- ヘリウム温度までのSTM、AFM、SNOM計測に広く活用できる
- 操作性がよく、低温性能、安定性に優れている
- レンズステージを用いた光照射、各種発光測定に最適
- In situ 蒸着用ポートが2箇所あり、原子・分子の低温蒸着、吸着に対応可能

用途

- 極低温STM、非弾性トンネル分光 (IETS)
- AFM各機能への応用（MFM、KFM、SCMなど）
- 光励起STM、AFM測定
- 極低温高分解能トンネル発行、光増強ラマン分光
- In situ 蒸着、原子・分子の吸着



ポルフィリン4分子重合体STM像
観測温度63K
スキャン範囲(nm)：3×3
データ提供：横浜市立大学 横山崇様



USM1200標準構成例(上面図)

SPMヘッド	
最大スキャン範囲(X×Y×Z)	4×4×0.8μm (低温時は1/4)
分解能	原子分解能
到達温度	10K
真空度	
観測室・処理室：3.0×10^{-8}Pa、導入室：1.3×10^{-5}Pa	
STMコントローラ	
Nanonis™ コントロールシステム	
オプション	
AFM機能	チューニングフォーク式NC-AFM

株式会社 ユニソク UNISOKU TII Group

E-mail: info@unisoku.co.jp　Web site: http://www.unisoku.co.jp/

本社・研究所　〒573-0131　大阪府枚方市春日野 2-4-3　TEL 072(858)6456　FAX 072(859)5655

20180608